森林レンジャーがゆく（148）

「外来カメムシ」

近年、東京都でも外来種のカメムシ、「キマダラカメムシ」が増えています。外来種といっても入ってきたのは古い時代で、初めて確認されたのは長崎の出島です。スウェーデンの博物学者ツンベルクによって、1770～80年代の江戸時代に発見・新種登録されました。南蛮貿易の荷物に紛れ込んできたと推察されます。このカメムシは本来、亜熱帯～熱帯（東南アジア）に生息しています。不思議なことに発見後150年近くほとんど姿が確認されていなかったのですが、1934年頃から長崎で見られるようになりました。細々と人の目に触れないように生息していたと考えられます。ところが2000年以降に生息地が急激に拡大・北上し、あきる野市でも確認されるようになりました。このカメムシは体長20mmを超える大型ですが、「サシガメ」の仲間のように人を刺すこともなく、無毒と言われています。捕獲した時もよく似た「クサギカメムシ」のような悪臭を出すこともないため、人に対して無害と考えられています（においについては、強い悪臭を放つとの報告もあります）。外見は、クサギカメムシに似ていますが、黒褐色のクサギカメムシに比べて黒色が強く、一回り大きいです。腹は、白色（黄色）と黒色のストライプとなっていることで容易に区別ができます。このカメムシも植物の樹液を吸汁します。そのため、今後は、発生状況により農作物（特に果樹）の吸汁などの農業被害が予想されます。

この熱帯由来のカメムシの生息域の拡大は、林野より市街地（都市部）で先行しているとの報告もあります。ヒートアイランド現象により暖かくなった市街地の都市公園や家屋で集団越冬して、生息域を拡大していると考えられます。また、これまで、林野での越冬が難しいのではないかと考えられていましたが、昨今の地球温暖化の進行で、林野でも越冬できるようになったとも考えられます。写真のキマダラカメムシも菅生の山林で１月に捕獲しました。このことから、今のあきる野市は、江戸時代の長崎・出島と同等かそれ以上に温暖だと考えることができます。

熱帯由来のこの虫の生息域の北上や拡大は、そのまま地球温暖化の進行を計るバロメーターになるのかもしれません。

たかがカメムシですが、私たちが知らないところで「地球温暖化」の影響で生態系も変わりつつあります。（杉野）